

誤

第 8.1.3.2-34 表 (2) 重要な種の確認状況〔現地調査〕

種 名	調査項目	季節	確認状況
(略)			
イヨスダレガイ	底生生物 (マクロベントス)	春	調査地点 9 及び調査地点 12 において、各 1 個体が確認された。
		秋	調査地点 6 において 3 個体、調査地点 9 において 1 個体、調査地点 10 において 10 個体が確認された。
		冬	調査地点 9 において 1 個体、調査地点 10 において 2 個体が確認された。
	底生生物 (メガロベントス)	夏	調査地点 1 において 2 個体、調査地点 2 において 22 個体、調査地点 3 において 5 個体、調査地点 4 において 1 個体が確認された。
(略)			
シバエビ	魚等の遊泳動物 (船びき網調査)	秋	調査地点 1 において、1 個体が確認された。
	魚等の遊泳動物 (底びき網調査)	春	調査地点 1 において 76 個体、調査地点 2 において 43 個体、調査地点 3 において 22 個体、調査地点 4 において 1 個体が確認された。
		夏	調査地点 1 において 102 個体、調査地点 2 において 11 個体が確認された。
		秋	調査地点 1 において 217 個体、調査地点 2 において 81 個体、調査地点 3 において 368 個体が確認された。
		冬	調査地点 1 において 47 個体、調査地点 2 において 47 個体、調査地点 3 において 161 個体、調査地点 4 において 4 個体が確認された。
	底生生物 (メガロベントス)	秋	調査地点 2 において 6 個体、調査地点 3 において 4 個体が確認された。
		冬	調査地点 1 において 4 個体、調査地点 2 において 6 個体、調査地点 3 において 10 個体、調査地点 4 において 2 個体が確認された。
(略)			

注：1. 調査地点の番号は、各調査項目における調査地点を示す。
 2. スナメリの確認状況は、「b. スナメリの生息状況」に示す。

正

第 8.1.3.2-34 表(2) 重要な種の確認状況〔現地調査〕

種名	調査項目	季節	確認状況
(略)			
イヨスダレガイ	底生生物 (マクロベントス)	春	調査地点 9 及び調査地点 12 において、各 1 個体が確認された。
		秋	調査地点 6 において 3 個体、調査地点 9 において 1 個体、調査地点 10 において 4 個体が確認された。
		冬	調査地点 9 において 1 個体、調査地点 10 において 2 個体が確認された。
	底生生物 (メガロベントス)	夏	調査地点 1 において 2 個体、調査地点 2 において 22 個体、調査地点 3 において 5 個体、調査地点 4 において 1 個体が確認された。
(略)			
シバエビ	魚等の遊泳動物 (船びき網調査)	秋	調査地点 1 において、1 個体が確認された。
	魚等の遊泳動物 (底びき網調査)	春	調査地点 1 において 76 個体、調査地点 2 において 43 個体、調査地点 3 において 22 個体、調査地点 4 において 1 個体が確認された。
		夏	調査地点 1 において 102 個体、調査地点 2 において 11 個体が確認された。
		秋	調査地点 1 において 217 個体、調査地点 2 において 81 個体、調査地点 3 において 368 個体が確認された。
		冬	調査地点 1 において 47 個体、調査地点 2 において 47 個体、調査地点 3 において 161 個体、調査地点 4 において 1 個体が確認された。
	底生生物 (メガロベントス)	秋	調査地点 2 において 16 個体、調査地点 3 において 4 個体が確認された。
		冬	調査地点 1 において 4 個体、調査地点 2 において 6 個体、調査地点 3 において 10 個体、調査地点 4 において 2 個体が確認された。
(略)			

注：1. 調査地点の番号は、各調査項目における調査地点を示す。
 2. スナメリの確認状況は、「b. スナメリの生息状況」に示す。

誤

第 8.1.4-13 表 クロロフィル a 量の季節別調査結果
〔現地調査〕

(単位：μg/L)

調査期間 採取層	春季 (平成 24 年 4 月 8 日)			夏季 (平成 23 年 8 月 1 日)			秋季 (平成 23 年 10 月 27 日)			冬季 (平成 23 年 1 月 24 日)		
	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大
表層	2.0	1.0	7.0	33.7	1.7	89.8	3.2	1.1	7.8	6.9	1.1	25.8
中層	2.2	1.0	3.4	32.2	3.6	65.0	1.9	0.7	4.5	9.8	1.7	24.5
下層	2.4	0.8	12.2	14.2	2.0	43.4	0.7	0.4	1.2	2.5	0.6	8.9
全層	2.2	0.8	12.2	27.4	1.7	89.8	2.0	0.4	7.8	6.6	0.6	25.8

注：採取層は、表層が海面下 0.3m、中層が海面下 5m、下層が海底上 1m（ただし、水深が 21m 以深の場合は海面下 20m。）である。

誤

第 8.1.4-14 表 植物プランクトンの季節別出現状況
〔現地調査〕

調査期間 項目	春季 (平成 24 年 4 月 8 日)			夏季 (平成 23 年 8 月 1 日)			秋季 (平成 23 年 10 月 27 日)			冬季 (平成 24 年 1 月 24 日)		
	(略)											
主な 出現 種 (%)	中層	珪藻綱	<i>Chaetoceros constrictum</i> (17.9)	<i>Skeletonema costatum</i> complex (45.5)	<i>Chaetoceros</i> 属 (44.0)	<i>Skeletonema costatum</i> complex (46.6)	<i>Skeletonema tropicum</i> (22.2)	Thalassiosiraceae (5.1)				
			<i>Stephanodiscus</i> 属 (8.5)									
			<i>Pseudo-nitzschia</i> 属 (cf. <i>pungens</i>) (7.4)									
その他	Cryptophyceae (29.2)				<i>Prorocentrum minimum</i> (85.9)							
(略)												

- 注：1. 出現種類数欄の [] 内の数値は、四季を通じた総出現種類数を示す。
 2. 主な出現種欄の () 内の数値は、各層のそれぞれの総細胞数合計に対する細胞数比 (%) を示す。
 3. 主な出現種は、組成比率の上位 5 種を示す。ただし、組成比率が 5%未満の種は除いた。
 4. 採取層は、表層が海面下 0.3m、中層が海面下 5m、下層が海底上 1m（ただし、水深が 21m 以深の場合は海面下 20m。）である。

正

第 8.1.4-13 表 クロロフィル a 量の季節別調査結果
〔現地調査〕

(単位: µg/L)

調査期間 採取層	春季 (平成 24 年 4 月 8 日)			夏季 (平成 23 年 8 月 1 日)			秋季 (平成 23 年 10 月 27 日)			冬季 (平成 24 年 1 月 24 日)		
	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大
表層	2.0	1.0	7.0	33.7	1.7	89.8	3.2	1.1	7.8	6.9	1.1	25.8
中層	2.2	1.0	3.4	32.2	3.6	65.0	1.9	0.7	4.5	9.8	1.7	24.5
下層	2.4	0.8	12.2	14.2	2.0	43.4	0.7	0.4	1.2	2.5	0.6	8.9
全層	2.2	0.8	12.2	27.4	1.7	89.8	2.0	0.4	7.8	6.6	0.6	25.8

注: 採取層は, 表層が海面下 0.3m, 中層が海面下 5m, 下層が海底上 1m (ただし, 水深が 21m 以深の場合は海面下 20m。) である。

正

第 8.1.4-14 表 植物プランクトンの季節別出現状況
〔現地調査〕

調査期間 項目	春季 (平成 24 年 4 月 8 日)			夏季 (平成 23 年 8 月 1 日)			秋季 (平成 23 年 10 月 27 日)			冬季 (平成 24 年 1 月 24 日)		
	(略)											
主な 出現 種 (%)	中層	珪藻綱	<i>Chaetoceros constrictum</i> (17.9) <i>Stephanodiscus</i> 属 (8.5) <i>Pseudo-nitzschia</i> 属 (cf. <i>pungens</i>) (7.4)	<i>Skeletonema costatum</i> complex (45.5) <i>Chaetoceros</i> 属 (44.0)	<i>Skeletonema costatum</i> complex (46.6) <i>Skeletonema tropicum</i> (22.2) Thalassiosiraceae (5.1)							
		その他	Cryptophyceae (29.2) <i>Prorocentrum minimum</i> (6.7)							<i>Prorocentrum minimum</i> (85.9) Cryptophyceae (5.7)		
		(略)										
	注: 1. 出現種類数欄の [] 内の数値は, 四季を通じた総出現種類数を示す。 2. 主な出現種欄の () 内の数値は, 各層のそれぞれの総細胞数合計に対する細胞数比 (%) を示す。 3. 主な出現種は, 組成比率の上位 5 種を示す。ただし, 組成比率が 5%未満の種は除いた。 4. 採取層は, 表層が海面下 0.3m, 中層が海面下 5m, 下層が海底上 1m (ただし, 水深が 21m 以深の場合は海面下 20m。) である。											

誤					
第 8.1.5-1 表(1) 主要な眺望点候補地の概要					
図中 番号	名 称	方 位 距 離 景観区分	利 用 区 分	現状の 発電設備 の視認性	概 要
(略)					
4	稲永公園	北 約 5.1km 中 景	公 園	○	スポーツセンターやサッカー場、野球場、テニスコート等を備えた運動公園で、園内には名古屋市野鳥観察館や環境省の稲永ビジターセンターが整備されている。
(略)					

誤							
第 8.1.8-3 表 主要な建設機械の稼働状況							
建設機械名	規 格	定格出力 (kW)	燃料の 種類	燃料消費率 (L/(kW・h))	平均稼働時間 (h/(台・日))	稼働台数 (台・日/工事期間)	
建設 機 械	(略)						
	ラフテレーンクレーン	20～50t	125～257	軽油	0.103	6.3	11,900
	(略)						
	タイヤローラ	10t	71	軽油	0.100	5.4	4,375
作 業 船	(略)						
	発動発電機	45～800kVA	42～514	軽油	0.170	5.9	27,725
	(略)						
作 業 船	クレーン付台船	35～100t 吊	94～195	軽油	0.219	6.0	1,000
	(略)						

注：1. 燃料の種類が電気の建設機械は、燃料消費率(L/(kW・h))を電力消費率(kWh/(kW・h))と読み替える。
 2. 燃料消費率は、「平成 24 年版 建設機械等損料表」(一般社団法人日本建設機械施工協会、平成 24 年)及び「港湾土木請負工事積算基準 平成 24 年度改訂版」(社団法人日本港湾協会、平成 24 年)による。

正					
第 8.1.5-1 表(1) 主要な眺望点候補地の概要					
図中 番号	名 称	方 位 距 離 景観区分	利 用 区 分	現状の 発電設備 の視認性	概 要
(略)					
4	稲永公園	北 約 5.1km 遠 景	公 園	○	スポーツセンターやサッカー場、野球場、テニスコート等を備えた運動公園で、園内には名古屋市野鳥観察館や環境省の稲永ビジターセンターが整備されている。
(略)					

正							
第 8.1.8-3 表 主要な建設機械の稼働状況							
建設機械名		規 格	定格出力 (kW)	燃料の 種類	燃料消費率 (L/(kW・h))	平均稼働時間 (h/(台・日))	稼働台数 ((台・日)/工事期間)
建設 機 械	(略)						
	ラフテレーンクレーン	4.9～50t	125～257	軽油	0.103	6.3	11,900
	(略)						
	タイヤローラ	8～20t	71	軽油	0.100	5.4	4,375
作 業 船	(略)						
	発動発電機	45～600kVA	42～514	軽油	0.170	5.9	27,725
	(略)						
作 業 船	クレーン付台船	35～150t吊	94～195	軽油	0.219	6.0	1,000
	(略)						

注：1. 燃料の種類が電気の建設機械は、燃料消費率(L/(kW・h))を電力消費率(kWh/(kW・h))と読み替える。
 2. 燃料消費率は、「平成 24 年版 建設機械等損料表」(一般社団法人日本建設機械施工協会, 平成 24 年)及び「港湾土木請負工事積算基準 平成 24 年度改訂版」(社団法人日本港湾協会, 平成 24 年)による。